

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>上位目標：                  【地震の影響で亀裂したラーニングセンター（ICAが2002年度日本NGO連携無償資金協力事業で建設）の修復により、被災者の回復と復興活動を遂行する。】</p> <p>達成度：                  事業地（バクタプール郡、チャングナラヤン村）に地震により亀裂した、子供と女性のためのラーニングセンターの修繕工事が終了し、2017年1月24日に完成式を実施した。</p> <p>また、コミュニティ復興ワークショップや子供と高齢者の心理ケアプログラムを通して住民の精神面が回復した。また震災後停止していたコミュニティ活動が再開され復興に向けて住民が進むべき方針が明確になった。更に被災者住民グループの中に、生理用ナプキン製造グループが形成され、修復されたラーニングセンター内を生産拠点として、ナプキン作りの製造、販売が開始された。この事業はネパール政府も歓迎しており、被災者住民の収入向上と貧困家庭の女性の教育向上にも繋げることができる。</p>
(2) 事業内容	<p>1-a ラーニングセンターの修復（以降：センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年6月から工事を開始し、センターの1・2階の煉瓦壁の取り換え、建物全体の亀裂をエポック補修等で大幅な修繕を終えた。9月以降は、壁の塗り替え、子供の遊び場（階段も含む）、北側に新設した台所、西側のダイニングルーム、水場用具の取り換え、電気用ソーラー発電パネルの設置、2階屋上に繋がる空間に扉の設置、家具の購入、雨水を貯水タンクに溜める配管工事を行った。</li> <li>・2016年4月27日～5月11日（15日間）と7月27日～8月2日（7日間）の2度に渡り、日本から構造建築専門家大越氏を派遣し、建築方法の確認や工事の進捗状況を綿密に確認した。また、現地スーパーバイザーを現場に派遣し、各週に渡り工事へのアドバイスをを行ったことで、職人、建築会社、スーパーバイザーが一つのチームを組み、連携を密に取りながら修復工事を行ったことで、質の高い、安全で利用しやすいセンターが完成した。</li> <li>・当初センターの西側の高台に子供用の遊び場を造成予定だったが、村人から「風の神様が通る場所である」という主張により、最終的にはセンターの敷地内北側の未使用の土地を整備し、子供の遊び場とした。</li> <li>・現在毎週25人程度の子供達が遊びに来ている。遊具として、シーソー2基、ブランコ1基、滑り台1基を設置した。また、生ごみ処理、花壇、野菜栽培などの設置で、資源の再利用を考慮し、且つ安全に子供たちを遊ばせることが出来る環境にすることができた。</li> <li>・2017年1月24日には、完成式を行い、在ネパール日本国大使館からは横井様、黒坂様が、ネパール連邦民主共和国側からは、Madhav Kumar Nepal 元首相、Dilli Prasad Bhatta や Nil Mani Baral 社会福祉協議会（SWC）等他にも地域の政治家の方々が出席された。また村人200人以上が参加し、翌日には現地新聞社である Annapurna Post や民間のテレビ局、ラジオ局の6社のメディアで報道された。</li> <li>・2016年11月20日～12月4日（15日間）までに川上未来本部事業担当が、会計確認、建築状況確認、研修等の確認、又新規事業地視察のため派遣した。</li> </ul>

### 1-b. 復旧に向けた住民会議の開催

- ・佐藤静代コミュニティ開発専門家を、2016年8月5日～19日（15日間）と2017年1月15日～29日（15日間）の2度に渡り派遣し、合計6日間（参加者は合計171名）の住民会議を行った。1回目の派遣では、震災前後の変化について話し合い、コミュニティ復興のために9つの分野（農業、手工業、商業、住宅、人材育成、アイデンティティ、教育、衛生、家庭）について5年先のビジョンをまとめた。
- ・2回目の派遣では住民会議を通して、参加者を5つのグループに分け（子供の保護者、心理社会カウンセリング・グループ、建築、生理用ナプキン製造、高齢者グループ）、1年間の事業の達成度合い、問題点の分析と解決策など、参加型のモニタリングと評価を行った。また、今後持続可能な事業にするためには、どのような活動をセンターで行う必要があるのかを参加者自身が考え、アクションプランを作成し、発表し合った。それぞれの会議前に、事業に関わるスタッフを対象に研修の打ち合わせを行った。

### 2-a. 子供を対象とした精神面、感情面のケアの実施

- ・4月24日（参加者15名）には講師 Ms. Shruti Rana により事業スタッフを対象に心理ケアに関わる上で必要な知識を深める研修を行った。
- ・7月1日、30日、8月6日（3日間合計75名）には講師 Ms. Sangita Pokharel と Ms. Rachana Sharma により、歌や踊りなど子供の心を解放するプログラムを行った。
- ・10月22日（参加者25名）には講師 Mr. TP Kadel と Mr. Atma RamTimsina 地域にある4つの学校の子どもたちを招待し、地震災害対策に関するクイズ大会を行った結果、地震に関する知識を深めると共に、他の学校の友達との交流でストレスを発散する機会になった。
- ・12月31日（参加者60名）にセンターを活かしながら地域活動をするための子供クラブが結成された。クラブは、9～14歳の17名のメンバーから構成され、その内11人が実行委員会の役員になった。

### 2-b. 高齢者のためのケア

- ・8月4日（参加者21名）には講師 Ms. Sangita Sharma と Ms. Pritha Khanal により震災後の体験を共有し合うプログラムを行った。
- ・11月16日（参加者26名）、12月23日（参加者29名）にプログラムを実施し、踊りや歌、大人の塗り絵、精神健康状態調査票（General Health Questionnaire）による健康状態確認を行った。
- ・12月31日（参加者22名）には、参加者の中から5人が高齢者グループの運営を行う実行員会のメンバーになった。高齢者グループは毎月1回集まり、菜園や踊りなど話し合いによって決めることとなった。Baldev Ghoresaini バクタプール郡開発委員会（District Development Committee）からの事業視察もその日に行われた。
- ・2017年3月1日（参加者23名）に、高齢者クラブのフォローアップを行い、クラブ活動はメンバーが覚えやすいように、月初日の午後3時から行うことを決めた。
- ・手林メンタルケア専門家を7月16日～30日（15日間）に派遣し、事業スタッフを対象に4日間、災害後の被災者の心理ケア対応に関して、精神状態検査（GHQ）などを使い指導を行った。
- ・5月31日から心理社会カウンセリング研修を（参加者合計362名）講師 Atma Ram Timsina と Mr. Amba Datta Bhatta が、合計で6回実施し、研修を通して、参加者の震災後に起きる心理状況やメンタル面を回復させるために、ポジティブ思考の大切さについての心理ケア

	<p>を行った。さらに心理社会カウンセリングに関するマニュアル本を250部作製し、参加者に配布された。</p> <p><u>2-c. 被災した貧困女性による使い捨てナプキンの製造と販売</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月16日、17日（参加者合計20名）の2日間、講師 Mr. Afzal Shaiekh と Mr. Hussainによりナプキンの製造研修を行った。</li> <li>・ 11月17日～21日（5日間）に、生理用ナプキンのマーケティング研修が、Mr. Ram Raja Pratap Bhandariによって行われた。参加者は125名、3日間のマーケティング技術と、販売に欠かせない3Q（質、数、金額）の知識を得た。実際に製造された製品と外国製品との比較調査を行った結果、比較的安価なインド産よりもセンター産の製品は補水量が高いことが分かった。その後2日間に渡りセンター近くの店や家庭を訪問し、ナプキンの使用の有無や商品の価格設定など現状を実習で調査した。</li> <li>・ 12月19日には15人の女性を集めて生産の工程と役割、生産者を決めた。12月26日から現地の5人の女性で生産を開始し、1日平均300個のナプキンを製造し、合計8,000個完成した。販売価格は、長さ24cmのナプキンは8個入りを50ルピー（50円）で販売する。長さ28センチのナプキンは8個入りを60ルピー（60円）と設定する。2017年2月に生理用ナプキンの商品名「Surakhshya」（安全に）を販売開始した。同時に生理用ナプキンに関するマニュアル本500部を配布する。</li> <li>・ 2017年3月1日（参加者22名）には、センターの近くにある学校（Dolagiri school）にて、13～16歳の女の子を対象に、月経に関する衛生面での意識啓発を行い、生理用ナプキン80個を配布した。</li> </ul>
<p>(3) 達成された成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>1-a ラーニングセンターの復旧</u></li> </ul> <p>成果：ラーニングセンターは、女性グループのメンバーが貯金やマイクロクレジット活動を行う場所以外にも利用されている。子供の遊び場が設置されたことで、研修中の母親が安心して学習できる環境となった。研修やイベント以外の放課後や休日にも遊び場は活用されている。今年度からは若い男性も参加している。</p> <p>指標：ラーニングセンターの直接裨益者は、8,047名（事業期間中の利用者名簿の記録）であった。日本人構造建築専門家がセンターの現状を分析し、現地の建設業者と共に修復計画の策定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>1-b 住民復興会議</u></li> </ul> <p>成果：2016年8月、2017年1月に実施されたコミュニティ復興ワークショップには、合計171人が参加した。研修で分けた5つのグループが、どのようにセンターを使用し、自分たちの生活改善につなげていくのかを話し合った。その後、女性グループがチャングナラン市の政府関係者にセンター前の道の改善を提案し、コンクリート道路に舗装された。</p> <p>指標：話し合いの合意項目を文書として記録し、スタッフのモニタリングや評価時に進行状況判断を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>2-a 子供のケア</u></li> </ul> <p>成果：子供の遊び場が完成した2016年12月以降、現在までの合計利用者は415名。またグループワークや心のケアの参加者は、合計で160名であった。インタビュー結果によると、震災後の不安定な精神状態が、ケアプログラムや遊び場でストレスが減り、自己開示や十分な睡眠、健康的な食欲を取り戻すことができたことが立証されている。</p> <p>指標：子供を対象にメンタルケア専門家による診断とアンケート調査</p>

	<p>や、専門家の診断記録やスタッフの聞き取り調査を行った</p> <p>・2-b 高齢者のケア</p> <p>成果：プログラムを通して、震災時の体験共有やストレスを軽減できる機会の対象者は121名。また、毎月15名の高齢者がセンターを利用するようになった。</p> <p>指標：高齢者を対象にメンタル専門家による定期的なアンケート調査を実施した。アンケート結果による精神状態の改善を行った。</p> <p>・2-c 被災した貧困女性グループによるナプキンの製造と販売</p> <p>成果：生理用ナプキンの製造と販売の研修参加者は、合計182名であった。また、生理用ナプキンに関するマニュアル本を500部作製し、一部を配布した。</p> <p>指標：5名が1日約300個の生理用ナプキンを生産し、現在までに8,000個生産した。長さ24cmのナプキンは、8個入りを50ルピー（50円）で、長さ28センチのナプキンは、8個入りを60ルピー（60円）で16,500NPR（16,500円）が販売された。</p>
(4) 持続発展性	<p>センターの運営に関して運営委員会が設置された。委員は5名で予算の使い方やセンターの貸し出しに関する方針や進捗状況について毎月一度話し合う。ワーキンググループの3名がセンターを清掃管理し、利用者の接遇も行う。使用料は女性の自助団体がマイクロクレジット活動をセンターで行っており、使用料を支払う。また、センターの屋上に建てられた民間のインターネット会社からも毎月使用料が徴収されている。今後も女性グループを中心に、人材育成研修所や子供の遊び場、さらに宿泊施設としても利用できるように価値を高め、収益も向上させ、センターの維持管理に使用する。</p>